



学園だより No.31

■発行人・発行所／
学校法人 北海道カトリック学園 理事長 勝谷 太治
札幌市中央区北1条東6丁目10カトリック札幌司教館内

「オーケストラ」

理事長 勝谷 太治

小学生低学年の頃、両親は何を血迷ったのか私をピアノ教室に通わせました。大工の家にカンナやのこぎりはあってもピアノやオルガンはなく、練習はぬき板に書いた鍵盤。これで上達するはずはありません。ピアノ教室には綺麗なめかしこんだ女の子達ばかり。女の子の中に男一人というのにも耐えられませんでした。自分より下手な人がいないという現実が耐えがたい屈辱で、数回で行くのをやめてしまいました。高学年になって私は音楽クラブに所属しました。発表会で任されたのがおもちゃのラップ。息を吹き込めばプーと鳴る何の技術もない楽器です。曲の中で数回「プップー」と鳴らすだけでした。しかし、自分はおもちゃのラップを吹いているという意識ではなく「おもちゃのマーチを」皆で演奏しているという風に感じ、皆で作りに上げた演奏に言い知れぬ充実感を覚えていたのです。キリスト教に出会った高校時代、私は努力すれば本気で聖人のような立派な人間になれると思っていた。がむしろに聖人伝やキリスト教の本を読みあさり、知った事は自分



とができると思うんだけど……」と声をかけると、手が止まりました。そして考える顔になり、お水にうかんでいるおしぼりを手にとりて絞りました。

「先生方、よろしく願います(マリア様、今日も子どもたちをよろしく願っています)」心の中で追加して、園を後にします。復職にあたり、(こどもの家か、てんしのおうちに入れますようにと祈ってきた私にとって、てんしのおうちの通園許可通知は本当に嬉しいものでした。認可保育園なので、役所の公平な判断にお任せする以外なかったからです。

私自身幼少期はカトリックの環境で育ちました。その時は何気なく過ごしていましたが、社会に出て、辛い事、淋しい事があつた時、ふと口ずさむのは子どものための聖歌。これに何度救われた思いをしたか

わかりません。厚くて字の細かい聖書は読む気にならなくても、子どもの頃に何度も歌った歌が、神様の愛を思い出させてくれ、頑張る勇気をくれるのです(時には育児中で余裕のない私をハッとさせる事もあります)。一歳四カ月の双子の娘達はまだ言葉も出てきませんが、歌は大好きなようです。いつか保育園で歌った歌を、家でも歌ってくれるかな。神様の愛に包まれて過ごす園生活を、子ども達が楽しめますように。そして保育園で歌う子どもの聖歌が、いつか大きくなった時も、子ども達の心を助けてくれるといいな。そんな思いで今晚も子守唄とともに、口ずさんでいます。

何度言っても言うことを聞いてくれない…、ダメということを繰り返してしまふ…。そんなふうにも子どものことで悩む保護者の方も多いと思います。そのたびに、時にはなだめたり、時には叱ったりしながら対応していくことは、本当に大変なことだと思ひます。

先日、実習の引率で行った園での出来事です。実習生の一人が、子どものレインコートを持って困った表情で立っていました。「どうしたの?」と聞くと、「A君(3歳児)が2階に上がっていつてしまつて…でも先生が対応してくださっています」とのことでした。しばらく様子を見ながら、先生がひとり2階から降りてきました。先生は2階の様子を気にしながら他の子に対応していましたが、少しすると、A君が一人で降りてきました。先生はA君に「先生との約束守れたね、えらいね」と声をかけていました。おそらく「自分で降りてくること」を約束したの

自分をコントロールする力

藤女子大学人間生活学部保育学科 准教授 高橋 真由美

その日、お部屋でA君は紙を好きな形に切つて新幹線を作っていました。のりを使うために、おしぼりを絞りに行こうと誘うと、引き出しからおしぼりを出し、流し台に置いてある洗面器に水を入れ、おしぼりの中に浸しました。そのまま絞つてくれれば何の問題もなかったのですが、A君は洗面器の水を一度流し、また水を入れることを繰り返し、「水遊び」のような状態になってしまっていました。「水がもつたじゃないよ」「早くおしぼり絞ろう」「新幹線作るんだよね?」と色々と言をかけた。困ったな…と言ったらいかなうと思つたのですが、朝の出来事を思い出し、「A君、朝、ちゃんと自分で2階から降りて来たよね?お約束守れたんだよね?そんな力があるA君は、きっとお水も自分でやるこ



とができると思うんだけど…」と声をかけると、手が止まりました。そして考える顔になり、お水にうかんでいるおしぼりを手にとりて絞りました。

子どもはきつと良い行いをしたいという気持ちを根底に持っているのしょう。でも、まだ気持ちを抑えることや自己をコントロールすることが難しいため、大人にとつてちよつと困る状況が起きるのだと思います。A君はこの日の朝、「自分で」良い行動を選んでそれを先生にほめてもらいました。その時の自分の気持ちを思い出して、水遊びをやめることができたのだと思います。こうやって「自分で」行動を選んだ時の気持ちを思い出して、水を絞り返すことで、子どもは自己をコントロールする力を得ていくのだということを実感したひとこまでした。

「認定子ども園に移行して」

俱知安藤幼稚園 保育教諭 福田 あみ

本園では今年度から認定子ども園に移行しました。それに伴い、午睡の畳の部屋・預かり保育の部屋・ウッドデッキが新しく増築され、木の香りと温かみを感じる園舎の中で132名の子どもたちが元気に過ごしています。増築されたお部屋に始めて訪れた子どもたちからは「木のいい匂いがするね」という声が聞かれ、新しい幼稚園での園生活に期待を持ち今年度がスタートしました。



預かり保育は、毎日35名程の園児が利用しています。そのうち3歳児のみ午睡をしています。お昼寝をする友だちしか入れない午睡の部屋は自分たちだけの秘密の部屋ということ、どこか嬉しそうな子どもたちの姿があります。そして可愛らしい寝顔をたっぷり見られる時間は私たちにとって癒しの時間でもあります。

では夏になるまでの間、各学年で待った花の種の成長を見守るスペースとして活躍しています。夏には水遊びやどろんこ遊びをする予定です。子どもたちにとって「楽しい」が溢れる場となることでしょう。

認定子ども園になりパワーアップした藤幼稚園。新しい環境で神様に見守られながら過ごしていく中で、たくさんの笑顔や喜びが生まれ、子どもたちの成長へと繋がっていく事を願っています。また、これからも子どもたちや保護者の方々、地域の皆様へ愛される園でありたいと思います。

子どもの聖歌

カトリック聖園てんしのおうち

保護者 伏屋 菜穂

♪美しいこの空を 愛らしいこの花を
浮かんでる白い雲 香りよき青草を
じっと眺めるだけで ただ眺めているだけで
ほら君もわかるでしょ 神様がわかるでしょ





さゆり幼稚園

「登降園を通して保護者と繋がる」

教務主任 渡部 陽子



「おはようございます!」の挨拶で幼稚園の一日が始まります。さゆり幼稚園ではバスがないため、毎日の送り迎えは、保護者の方と一緒に手を繋いで登園します。玄関では園長先生やクラスの先生が迎えてくれ、子ども達の表情や様子を見ながら声をかけていきます。子どもだけではなく「お母さん、今日は〇〇くん元気ある?」「体調はよくなりましたか?」と保護者の方ともお話ができる時間。帰りに「今日はたくさん手伝い頑張りました。」「鉄棒に何度も挑戦していましたよ!」と一日の出来事を伝える時間でもあります。一日のなかで楽しいことばかりではなく、伝えなければならないこともあります。しかし、直接、保護者の方と顔を合わせ、お話ができることにより、教師側の思い、保護者の思いを知ることができ、私達教師は気付かされることも。その気付きによって保護者と繋がり、子どもの気持ちに繋がり、幼稚園と繋がることのできるのです。幼稚園はたくさんの保護者の方の協力があり、成り立っています。これからも一緒に子どもの成長を感じ、子どもの未来に向かってお話しできることを願っています。

笑顔いっぱい

さんぽみち



岩見沢天使幼稚園

「友だちがいる喜び」 副主任 内田 純子

4月に入園した年少の男の子は、コミュニケーションをとることが難しく、騒音や大勢の人がいる環境が苦手です。誰もいない遊戯室で遊ぶことが多いその子がその日、活動中の教室にやってきました。一緒に過ごすことを楽しみにいつも待っていた皆は大喜び!特に入園式からペアとして過ごしている年長さんは嬉しそうに出迎え、積極的にお世話を始めました。ペンを使いたい!と動作で訴える姿を見て、自由画帳の白紙ページを準備したりペンのキャップを取ったりと、気持ちをくみながら自分なりに考えて関わっていました。男の子の行動に興味津々な子どもたちも、何を描いているのか囲うようにして覗き込み、絵を見ながら口々に話し掛けていました。温かい優しさでクラスの皆が一つになった瞬間でした。

言葉がなくても自然と仲間として受け入れ、見守り、相手を知ろうとする姿。それこそが様々な個性を育てていくために大切な関わりであることを子どもたちが一番よく知っていたのです。感動とともにそれは私にとって大きな喜びになりました。幼稚園の先生で良かった!これからもたくさんの笑顔に出会えますように!



カトリック聖園こどもの家

「神さまと共に」 保育教諭 秦 彩子

ある曇り空の日、新しく覚えた“にじ”の歌をお部屋で歌っていると、窓から明るい光が差し始めました。すると子どもたちは、「神さまに届いた!」「神さまもこの歌、好きなのかも!」と言って喜び、「もう一回、神さまのために歌おう!」という声が挙がりました。それ以来、子どもたちはこの歌が大好きになりました。

子どもたちの一日はお祈りから始まります。登園するとすぐ、玄関のマリア像に「マリアさま、イエスさま、おはようございます!」と手を合わせて元気に挨拶をします。そして神さまがして下さるように、私たち保育教諭も「あなたたちが大切に、大好きだよ」という思いを伝えています。子どもたちが生活の中で「〇〇ちゃん、頑張ったね!えらいね!」「畑の野菜たち、のどかわいてる。お水をあげなくちゃ!」「風邪を引いているお友だちが早くこどもの家に来れるように、おうちでもお祈りしたんだよ。」と、誰かを想う優しい言葉を口にする度、子どもたちの心の中に神さまの言葉が届いているのだと感じています。

これからも子どもたちが素直な心で神さまを信じ、共に歩んでいけるよう、寄り添っていきたいと思います。



広島天使幼稚園

「大きくなったね!～誕生会～」

教諭 千葉 桃子

子ども達が心から楽しみにしている行事の一つに、誕生会があります。誕生会は隣接している教会で行います。子ども達は教会を「神様のお家」と呼んでいます。木の香りいっぱいの教会は、ステンドグラスから光が差し込み、みんなで歌う聖歌や季節の歌が綺麗に響き、毎回素敵な空間が生まれています。園とは違う雰囲気、背筋が伸び、神様と共に温かな心で友達の誕生会をお祝いしています。

また、誕生児は祝別されたおメダルをプレゼントされ、その時の表情は一つ大きくなった嬉しさと、神様を身近に感じ、守られる安心感でキラキラ輝いています。マリア様が描かれたおメダルは、子ども達のパワーの源であり、日々の活動のやる気や勇気に繋がっています。誕生会では、祭壇の前に立って一人ずつ自分の名前と、何歳になったかを発表します。さらに将来の夢を発表すると、見ている子ども達から拍手が起こります。

そして神父様がその月に合った神様のお話をしてくださいます。堂々と発表する姿や、真剣に話を聞く姿を見て、保護者の方からはお子様の成長を感じたとの喜びの声が聞かれ、私達もとても嬉しく思います。神様や周りの人達に愛されて生きている事を感じ、思いやりの心を育てて欲しいと願っています。これからも親子の思い出に残る素敵な誕生会にしていきたいです。

